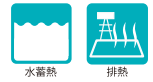


国立大学法人 福井大学 松岡キャンパス



贈呈理由 **蓄熱空調運用改善、未利用エネルギーの活用により、省エネ・ピーク電力抑制を実現**



松岡キャンパス



ターボ冷凍機



排熱回収ヒートポンプ

国立大学法人福井大学松岡キャンパスは、1980年に福井医科大学として発足。2003年に旧福井大学と統合して、新福井大学が誕生し現在に至っており、医学部とその附属病院を伴い、高度な専門性を備えた医療人を養成するとともに地域医療の中核を担う施設である。

附属病院は、県内唯一の特定機能病院として「最高・最新の医療を安心と信頼の下で」の理念のもと高度な医療を提供し、最後の砦としての役割を果たしている。現在、優れた地域医療人を輩出するハイクオリティメディカルセンターとしての地位を確保するため病院再整備

事業が進行中。平成26年度には新病棟が稼働し、平成30年度には新外来棟・中央診療棟での診察がスタートする予定である。

トプラランナー設備と最新の管理手法で

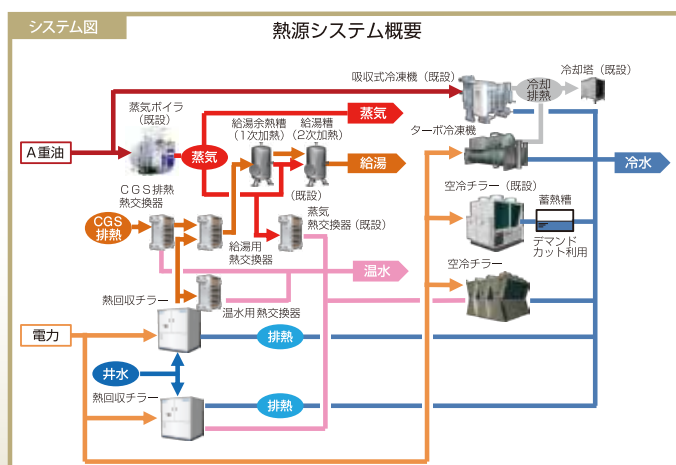
病棟の増加に伴い、環境性・省エネ性を考慮しながら設備の増設、更新に取り組んだ。既設蓄熱槽の運用方法の見直しをはじめ、A重油を使用していた旧設備から、ターボ冷凍機など高効率なヒートポンプ機器に更新した。また、施設管理データをクラウド上でデータベース化し、各所とデータを共有することで

施設管理の見える化を図り、省エネルギー、省コスト管理を実現している。

また今回のプロジェクトでは、未利用エネルギーである井水熱、コージェネレーション設備の排熱の利用にも着目し、それを再利用可能な熱回収チラーを採用することで大きなエネルギー削減効果を上げている。

医療機関の核としてさらなる飛躍を目指す

同大学ではこれからも、グローバル社会で活躍できる医療人を養成するとともに、世界レベルでの研究を通して医学の進歩に寄与し、高度で先進的な医療で国民の生命と健康の保持に貢献することを目指していく。



福井大学 (松岡キャンパス)

所在地: 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
蓄熱設備設計: 東テック(株)
蓄熱設備施工: 東テック(株)
延床面積: 130,774㎡
竣工: 2015年(更新)

- 蓄熱設備概要
- 水蓄熱式空調システム
- 熱源機: 空気熱源ヒートポンプチラー 1416kW×1台 [東芝キャリア]
- ターボ冷凍機 1407kW×1台 [ダイキン工業]
- 蓄熱槽: 4870㎡ (冷水槽)
- 排熱回収ヒートポンプ 456kW×1台・245kW×1台 [神戸製鋼所]